



GREEN KAI

~~~~~ NEWSLETTER ~~~~~

2014年 9月号

- | | |
|------------------------------|----------|
| • 会長挨拶 | 高松 文三 |
| • 70歳の放浪紀（2） | 岩村 茂男 |
| • 退職生活 「事始め」 | 西野 和秀 |
| • 二人の日本人漂流者 | 小川 豪 |
| • 山の中を走る赤い電車 | 文子 ファセット |
| • 歩いた！ 八十八ヶ所お遍路道 1200km 40日間 | 永迫 盛登 |
| • 太巻きの具 レシピ | |
| • 編集後記 | モズリー 牧枝 |

***** 会長挨拶 *****

親の心

一年前、「来年の秋祭りは絶対行かない」と宣言したのに、物好きにもまた行ってしまった。末っ子に頼まれるとどうしてもノーと言えない。その8歳になる末っ子が、秋祭りのあるブースでおみくじゲームのようなことをした。帰宅してから今度は、自分でおみくじを作り出した。「お父さん、何かお願い事はない？」と訊く。もう人生の秋を迎えた今、特に願うことも無いのだが、やはりいつも頭のどこかに、日本にいて、しなくてもいい苦勞をしている次男のことがある。もう大人なのだ、放っておくしかないのだと思うのであるが、周囲の雑音に惑わされて余計な口出し、手出しをしてしまう。「じゃあ、〇〇が幸せになりますように」と答えると「ああ、〇〇兄ちゃんが幸せになりますようにだね。うん、わかった」そう言って、小さな紙に「大きち：高松文三：〇〇が幸せになりますように」とたいそう丁寧に書いてくれた。「これ、大事に持っていてね。ちゃんとその通りになるから」

本当にそうなってくれたら、どれだけ安心するだろう。この子の一点の曇りの無い心がそのまま天に通じてくれたらどんなに嬉しいことだろう。現実はおそらくそんなに甘くはない。しかし、心配をかけまくってくれる子がいる一方で、こんなにも慰めてくれる子がいる。うまくバランスが取れているのかもしれない。こんな歌に出くわした。子供のことに心を悩ますのは今も昔も変わらないのだなあ とつくづく思う。

人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に惑ひぬるかな （藤原兼輔）

藤原兼輔（ふじわらのかねすけ）は平安中期の人。紫式部は、ひ孫に当たるらしい。源氏物語で一番頻りに引用されているのがこの句であるとのこと。子を持つ前はこんな歌に出会っても素通りしたろうに、親となってみると、何とも身に沁みる歌ではないか。

とにかくにも、来年こそは絶対秋祭りには行かないつもりである。

（会長 高松 文三）

***** 70歳の放浪紀（2）*****

シルクロードの旅

国土の広い中国では、料金も安く、長距離列車は東西、南北に縦横無尽に、又、ある程度、正確に運転されている。

今回2012年の夏の旅は上海と旧ソ連のカザフスタンとの国境のウルムチまでのシルクロードの旅と洒落ることにした。両地間は4079キロ、かつては81時間かかったそうだが、現在では僅かに48時間で走破するそうだ。何時もの例にならない気ままに途中下車するので何日かかるかわからない。

上海市は人口が2000万人もあるとか。あまりにも大きくてどうして駅まで辿り着けるか分からぬ。タクシーに乗るのもバックパッカー見習いの身にとって業腹とて、地下鉄を利用する事にした。切符の買い方が分からない。駅員がそんな小生を見つけて、ニコニコ笑みをたたえて寄り添ってきて、ベンディングマシーンでわざわざ切符を買ってくれ、駅のホームまで同行してくれた。これには驚いた。小生は少々中国人に偏見を持ちすぎていたのかも知れぬ。`謝々、謝々`とお辞儀、`どういたしまして、ありがとう`と綺麗な日本語。そうしてみると、地下鉄などは万博の為に作られた事もあり、日本のそれよりも近代化されているとの印象を強くした。

まずは上海→西安間の切符を手に入れる。かつては中々手に入らなかった貴重品の切符もパスポートさえ見せれば良い。この時の料金は上海→西安、軟臥車で490元（6900円、寝台一等）。乗車して、しばらくすると胸に`列車員・上海段`と赤く縫い取りした乗務員が検札に来た。この男の無愛想なこと、怖い顔で切符を取り上げ、手にしていた手帳にしまい込んで持って行ってしまった。

この列車がディーゼルであったのか、電気機関車であったのかは憶えていないし、ノートにも書かれていないが蒸気機関車では無かったことは確かである。時速は100キロ位、快調にゆれも無く走っている。6時間程して南京駅に着いた。大きな駅で色々な人達がリヤカーに商品を積んで売りに来る。ここで下車して南京虐殺記念館を見学しようと思ったが、ホテル探しをしなくてはいけないと思うと物憂く感じ、そのまま汽車のベット上からホームを眺めていた。

‘南京長江大橋’にかかる。6800メートルもあると言う。橋桁の高さも川面から60メートル。満々たる褐色の水面には大小無数の船が、1万トンもあろうと思われる船まで浮かんでいる。どうも米国はミシシッピー河、エジプトはナイル河よりも雄大な景色である。

徐州・開封 洛陽も通過。 やっと古の都、長安、現代の西安に着く。開封は北宋の都、洛陽は後漢、その他の王朝の都、西安は前漢、唐などの都、これらの駅名を読むだけで嬉しくなる。 三門峡を越えた所に険阻な地形には名だたる函谷関があるはずだが、鉄路はその大分南方で通じているので見る事が出来なかった。

西安駅前ホテルを探す。 安宿風のホテルに今晚の宿を頼む。 ガール 300元（4200円）、安いヨ!!!’無視して‘解放軍宿舎’と書かれているホテルへ。 3日後の汽車の切符を買いに西安駅へ 西安→ウルムチの料金は737元（10300円）。

3日後、西安より、いよいよシルクロードへ。 40年ほど前に父とこの地を訪れた時には、西安の都を囲う堂々たる城壁があったのと思ひ、案内書を見ると明代に造営されたとの事らしい。 城壁の上に楼閣がある。

次第に平野の幅が狭まる気がする。黄河かその支流に沿って走っているのかも知れぬ。 地勢が急になり、斜面は段々畑になり、天に到る。ウルムチまでは未だ半路にまで到っていないし、古都、長安も見学していない。全て帰りにしようと又、勝手に決定。 この勝手さがこのスケジュールに左右されないバックパッカーの良さなのだ。

— 続く — （記 岩村 茂男）

***** 退職生活 「事始め」 *****

「事始め」と言っても、退職生活に初めて入るわけではない。もう十年余り前にサラリーマンとしては退職したものの、以来翻訳、通訳、学校のサブ(Substitute)等数々の非正規社員の仕事をこなすのに、翻弄していたように思う。処が、昨年六月にプレノからヒューストンの郊外に引っ越すと共に、これらの仕事は全て辞めてしまった。生涯で初めて「毎日が日曜日」と言う身の上になった。ここでは、この一年余りを省みて体験したこと後悔したこと、又これからの抱負(?)等をそこはかとなく書いて見たい。

引越しをして来た土地はヒューストン市の南西部に位置し、**Sugar Land** 市の南東に隣接する **Missouri City** と呼ばれる小さな町です。歴史的には 19 世紀初めに、ミズリー州及び南カロライナ州からの開拓者がこの地に数々のプランテーションを設置していたようです。近代になってこの曲がりくねった **Brazos** 川に沿って、15 年程前から **Sienna Plantation** という新しい町 (**Master Planned Community**) が開発され始め、現在もなお進行中です。現在約 8000 戸の住宅がありますが、自然環境を残した緑の中の町です。町は全て遊歩道で結ばれ、ゴルフコースをはじめレクリエーション施設が完備されている。ショッピングモール、医療施設病院などは **Sugar Land** を中心に数多くあり、日常生活には事欠かない。

処が、当地に引越して来て、やっと荷物が整理された昨年 7 月初め、夜中に突然胸の上部が締め付けられるように痛くなり、救急病院に駆けつけた。そのまま 3 泊 4 日入院することになり、心臓カメラ検査がなされた。その結果心臓の周辺に網のようにめぐる血管の一部（直径 1 mm 位）が閉塞した狭心症と診断された。細い血管ですから手術はしませんでした。以来再発を防ぐために、沢山の薬を服用している。通常狭心症の主な原因は血圧、コレステロール、血糖値などが高い時になり易いようだが、自分の場合これらの数値は正常であったので、心臓に関わる病気にはならないと高をくくっていた。入院中に心臓医曰く、狭心症のもう一つの大きな原因はストレスだそうです。引越しの前後数ヶ月は、肉体的精神的な無理が重なっていたのが良くなかった。日夜大小 230 個の荷物を纏め、押したり持ち上げたりの日々が続いた。全く予期しなかった狭心症を患い、一時は引越しの決断を後悔した。しかし「腹水盆に返らず」、今生きていることに感謝して、” **Power of Positive Thinking**” の精神を以って前に進みたいと思う。人生は「寒翁が馬」とも言うが、又良い事があるかも知れない。

健康上の事とは別に、引越しに関連して軽率であったことがある。それは当地 (**Fort Bend County**) の固定資産税である。引越し前に不動産関係者からも、充分説明を受けていたのですが、実際の税金と地域の関連費用を含めば、プレノに住んでいる時より 3 倍以上の税額になった。**Sienna Plantation** は住む環境は良いが、地理的に **Brazos** 川に近く、元来洪水の危険がある土地で、開発時に周辺に広域にわたる堤防を築いている。ですから、この堤防に関わる税金が余分にかかる分けです。と言うわけでハリケーンが来ても洪水の心配は無いのですが、**FEMA** (**Federal Emergency Management Agency**) の特別洪水保険を填補しておかなければならない事など、自分の情報収集のお粗末さと無知を後悔した。しかし、余り思い煩うのはストレスの原因になるので、心臓の健康のために楽観することにした。

何と言っても、引越しに関して最も痛感したことは、友人知人の輪を失くしたことだと思う。若い頃の引越しは仕事がらみで移動する事が普通で、友人関係有無に関わらず、ただ新しい目標に向かって進んだものだ。しかし、退職後に引越すことは、社会的にも人間関係においてもインパクトは大き

い。当地でも旧知を頼りに、また新しくめぐり逢う人々を大切に、新たに友達の輪を暖か育んで行きたいと思う。

そして今この新しい環境と境遇の中で、如何なる目標を持って退職生活を送るべきかを模索している。世の中を見渡すと、その生き方にあやかりたいと思える先達が大勢いるようだ。例えば昨今インターネット上でもよく見かける記事で、聖路加病院の日野原重明医師は今年103歳になり、いまだ現役でお仕事をなさっておられるとのこと。健康で長生きできることは誰しも望むところだが、熟練した技術を持って、自分の職業を老後においても継続して行ける人は本当に幸せだと思う。

アメリカでも現在毎日ペースで、おおよそ一万人の人達が退職生活に入って行くそうだ。公的年金、医療などの財政逼迫も然ることながら、高齢者が如何に長く健康を維持できるかが、公的にも個人的にも未来の大きな課題だと思う。その意味においても、私自身も退職生活を健全に且つ楽しく生きる努力を進めて行きたいと思う。現在自分は毎朝50～60分位歩く事を日課としている。そして朝食前に、ラジオ体操1と2をする。これは「走歩会」の線上にあるわけですが、歩くことは心臓医の絶対的命で毎日の日課としている。この他頭の体操のために、過去に習った外国語（スペイン語と中国語）を復習している。出来れば授業にも出て、積極的に習得したいと思う。ごくしゃくとした日中関係が改善し、中国の大気汚染の問題（私の喘息の大敵）がおおよそ解消した時には、中国を旅したいと思っている。

周囲を眺めると、退職後も自分の趣味をもって、生き生きと楽しく過ごしている人達がいる。スポーツ、音楽、美術、短歌、etc.etc. 趣味を持ちなさいと云われても、そう簡単に始められないのが常だしかし、自分が今最も求めていることは、人との関わりではないかと思っている。趣味を求めることも然ることながら、ボランティア活動或は再び学校のサブを通して人との接点を増やし、再び生活のリズムを取り戻すことが出来るかもしれないと思っている。

（記 西野 和秀）

***** 二人の日本人漂流者 *****

最近、日本人で一番最初にアメリカの市民権を取った人物の本を読み、興味深い話を書いてありましたのでそれに関連した話をここで紹介したいと思います。本の題名は「日系米人第一号」（中川努著）で、156年前にアメリカで帰化した日本人浜田彦蔵の生涯を、彦蔵の「自伝」とその他の情報をもとに書いた本です。

まずいつ頃の話しかと言いますと、浜田彦蔵がアメリカで帰化したのが1858年。東インド艦隊長官ペリーが日本の浦賀に来たのが1853年で、明治元年が1868年ですから日本では幕末騒動の真っ最中で、まだアメリカには日本人が殆ど居ない時期でした。

アメリカ彦蔵と呼ばれていた彼の話を書くと、「江戸時代の終わりのころに、乗った船が遭難。その時にアメリカの船に助けられ、アメリカへ連れて来られて米国の教育を受け、後に幕末の黒船騒動の真最中の江戸に行き活躍をした人。これはまるで土佐のジョン万次郎の筋書ですが、播磨（兵庫県）の浜田彦蔵（ジョセフ彦）の話でもあったわけです。この二人、ジョン万次郎と浜田彦蔵の体験話しはとても似ていたのですが、実は大きな違いが一つありました。開国時にジョン万次郎は日本側で活躍し、浜田彦蔵はアメリカ側で活躍した事です。

ジョン万次郎が1841年、浜田彦蔵が1851年にアメリカに来ましたが、当時アメリカはまだ西部開拓史の時代で、南北戦争が始まったのが1861年。有名なジョージ・アームストロング・カスター将軍がBattle of the Little Bighornでインデアンと戦い戦死したのが1876年ですから、今の我々にはちょっと想像できないような時代でした。

彼らの話をご存知の方も多いかと思いますが、知らない方の為にここで二人の生涯をもう少し紹介します。

万次郎は1827年に生まれ14歳の時に漁師仲間と共に海で遭難、鳥島に漂着。そこでアメリカの捕鯨船John Howlandに救助されたが、日本は鎖国のため日本には行けずハワイで仲間は降りたが、船長のWilliam Whitfieldに気に入られた万次郎は一緒に航海を続ける。その後、マサチューセッツ州Fairhavenで学校に入り英語、数学、測量、航海術、造船技術を学ぶ(1843~1844)。1850年ゴールド・ラッシュのサンフランシスコへ移り、金を採掘してお金を稼ぐ。ハワイで漂流仲間と合流し、捕鯨船を買い取り日本へ向かう。1851年、琉球に上陸しそこから薩摩本土へ送られた。開明家の藩主島津斉彬に海外の情報を説明、造船術、航海術などを薩摩藩で教える。その後江戸幕府の長崎奉行所へ送られ、長期間尋問を受けるが、1852年に無事に故郷の土佐に帰る事が出来た。

1853年黒船来航で、万次郎はアメリカの知識があるというので幕府に招聘され江戸へ移る。

英語が話せるのは万次郎だけであったので、ペリーとの交渉の通訳に当たるはずであったのが、老中からスパイ容疑を持ち出され、通訳の仕事から降ろされてしまう。そのため万次郎は日米和親条約を陰からサポートしました。

一方の浜田彦蔵は、兵庫の播磨町で1837年に生まれる。1851年13歳の時に知人の船で江戸からの航海中に、紀伊半島で難破。2ヶ月の漂流後アメリカの商船Aucklandに助けられサンフランシスコに到着。東インド艦隊長官ペリーが日本へ開国の交渉に行くと決まり、親善のジェスチャーとして日本人の漂流者を一緒に連れていく事になり、彦蔵らの漂流者を香港へ移動させる(1852)。ところが香港でペリーの到着が遅れ、彦蔵は又サンフランシスコへ戻りそこでしばらく生活をする。サンフランシスコの税関長で企業家であったBeverly C. Sandersに会い親身な援助を彼から受ける。その後、東

海岸へ移りボルチモアではミッション・スクールで教育を受け、カトリックの洗礼を受けた。1858年、日米修好通商条約ができ日本へ行く決心をした彦蔵は、帰化手続きをメリーランド州ボルチモア裁判所で取り Joseph Heco と登録。日系米人第一号が誕生。

ジョセフ彦は、合衆国神奈川領事館付通訳としてハリス駐日公使から雇われ、長崎・神奈川へ9年ぶりに帰国(1859)。日本ではオランダ通詞は沢山いたが、英語の通詞はいなかった。日本語<->オランダ語<->英語の会話は時間がとてもかかり、ジョセフ彦が活躍をしたわけです。ジョセフ彦は翌年領事館の職を辞め、貿易商館を開くが尊王攘夷派から名指しで狙われ、身の危険を感じ1861年10月にアメリカへ戻った。ジョセフ彦はその時、1862年3月に南北戦争真最中のエイブラハム・リンカーン大統領と会見しております。リンカーン大統領の前の二人の大統領とも在任中に会見をしており、彼の友人にはアメリカ政界につながるのある有力な人がいたようです。ジョセフ彦はその後又日本へ戻り、領事館通訳の職に就いていました。

ジョン万次郎とジョセフ彦の二人は、子供の時に字を習わなかったので日本語が書けなかったそうです。ジョセフ彦は自伝を書いているのですが、これは英語で全て書かれております。ジョセフ彦が帰化した時の合衆国帰化法は、帰化の条件として「5年以上合衆国にすんでいる「自由民たる（奴隷でない）白人）」と規定されていた。白人でないジョセフ彦に問題がなかったのか？彼の友人が動いたのか？その後、南北戦争中に「日本人、中国人は白人とはみなさない」という一項が加えられたそうです。

当時アメリカには、かなり中国人が居たようで、鉄道工事とか金の採掘現場で働いていた話が出ています。しかし鎖国の日本からアメリカに来る日本人は皆無で（漂流者を除く）、ジョン万次郎とジョセフ彦がアメリカに来た時、日本人とはどんな人間かと興味を持った人達が会いに来たそうです。若い二人の性格が良かったのかアメリカ人に好かれ、しかも彼らは若いのに賢いと言う事で学校に行かせてもらえた。ジョン万次郎は Barrett Academy で首席であったと言われております。他にも日本人漂流者が居たが、彼等ほど幸運ではなかった様です。ジョセフ彦によると、アメリカにいる間にほかの船で漂流した日本人に、ハワイとかサンフランシスコで会ったと話をしております。意外と日本人漂流者が多かったのかもしれないね。

その後、ジョン万次郎とジョセフ彦は共に日本に大きな貢献をした人たちで、万次郎は威臨丸に乗り勝海舟等とアメリカに渡ったり、又小笠原諸島の開拓調査に行った。そして高知と鹿児島で英語、航海術、測量術などを教えた。明治に入り、開成学校（東京大学）で英語教授になる。ジョセフ彦は英字新聞を日本語訳した海外新聞を発刊したり（日本の新聞創始者）、大阪造幣局の創設に尽力したり、木戸孝允（桂 小五郎）、伊藤博文、井上薫、トーマス・グラバーとも繋がりがあって、日本の外交に尽くしました。

ペリーが日本に現れた時、日本での西洋人とはオランダ人で、ほとんどの日本人はアメリカの事を余り知らなかった。英語を喋る人はいなく、アメリカの国の情報を知る人もいなかった。外国の情報は

オランダ人から聞いてはいたが、オランダは自国に都合のよい話しか流さなかったので、日本の役人は世界の情勢をはっきりと理解していなかった。ジョン万次郎がアメリカに住んでいた事があり、英語が喋れるというのでいきなり幕府の重要人物として登場。少し遅れてジョセフ彦もアメリカ側の人物ながら、アメリカ事情に詳しい日本人として日本に現れた。その時期に木戸孝允と伊藤博文が度々ジョセフ彦を訪問して、アメリカの国の情報を彼から聞く。大統領がどの様に選ばれるとか、政治、文化などアメリカの話はジョセフ彦はして、できる限りの援助を与えた。明治の初期まで、ジョン万次郎とジョセフ彦は日本にとって必要な人物であり、彼らの最盛期でもありました。

ところが晩年は、時代が変わり彼らが活躍する場所もなくなり、これと言った話は残っていません。歳を取るとジョン万次郎は英語が話せなくなって、昔のアメリカの友人が訪ねてきても会話が出来なかったとあります。

ジョン万次郎は明治31年に、72歳で死去。ジョセフ彦は明治30年に61歳で死去。ジョセフ彦は、外国人であるとの理由で青山外人墓地に葬られたそうです。

アメリカと深く関わった、我々日本人の大先輩の激動の人生の話でした。

(記 小川 豪)

***** 山の中を走る赤い電車 *****

先月(8月)、私の娘の家族が住んでいるコロラド州に、私と主人と二人で行って来ました。今回の旅行の第一の目的は8月で10か月になった私達の可愛い孫娘のイービーに逢うためでした。私はイービーが生まれる前からコロラドが好きなのでコロラドには何回も観光に行っていました。彼女が産まれてからこの10か月間で、今回は3回目のコロラド旅行です。

第二の目的はパイクスピーク山に行くことでした。パイクスピーク山は、娘一家が住んでいるWestminster市から車で約一時間20分間離れた所にある街、コロラドスプリングス市にあります。パイクスピーク山に来たのは今回で3回目になります。

私が初めてパイクスピークを訪れた時は、今から約18年前の6月で、テキサスでは真夏のような気候ですが、山の麓はまだ肌寒くらいでした。その時丁度近くにある冬用のジャケットを売っている店で、パーカーを購入したことを覚えています。

二度目に訪れたときは、7年前の四月。パイクスピークは、四月が山開きです。でも、その年は、大雪のせいで五合目位で下山をしなければ成りませんでした。

上記の記事を読んでいる方は、きっと私がハイキングで頂上まで登山したと思うかもしれませんが実は私達は麓から頂上までコグ鉄道に乗って山中の景色を楽しみながら、リラックスな旅行をしながら頂上に着きました。

パイクスピークは、海拔約14Kフィート。コロラド州で最も高い山ではありませんが 頂上から眺める圧倒的な美しさ、そしてその壮大な景色に、私は観るたびに息が止まる思いをします。あの有名な曲、“アメリカ ザ ビューティフル”は、キャサリン・リー・ベイツが頂上からの絶景に感動し、作詞したもので、頂上には今でも“アメリカ・ザ・ビューティフル”の記念碑が最も見晴らしの良い所に建っています。

キャサリン・リー・ベイツ（ウェルズリー大学教授）は、1893年の夏に、コロラド大学の夏の会期を教える為にコロラドスプリングス市に訪問中に馬車で頂上に到着した時に彼女がパイクスピーク山の美しい優雅な景色に感動し作詞した曲だそうです。

私達がサミットハウスの周りで写真を撮っていましたが、まだ20代位の若い男性達3人が頂上までハイキングで着いたところに出会いました。3人共、皆とても疲れている様で、その中の一人が寒さの為に震えが止まらず、結局は電車で下山したようでした。

ハイキングのトレイルでは、電車の中からでは、観ることが出来ない広大なパノラマの壮観さを楽しむことが出来るようです。でも片道6-8時間はかかるみたいです。

私は何と言ってもコグ鉄道の赤い電車に1時間25分揺られて、山中に住んでいる動物たち、山の中でしか咲いていない植物、壮大な山谷などを見ながらサミットに到着することが一番の様に思えるのです。

今でも忘れられないのは、大雪の中を走る電車の中から見た、美しいパイクスピーク山の雪景色です。また今度、パイクスピーク山に行く時は、山開きする4月に訪れたい。

それから最後に、何処からパイクスピークと言う名前が付けられたのか、その由来を調べてみました。パイクスピークは、南西部の早期探検家、ゼビュロンモンゴメリーパイクにちなんで命名されています。パイク中尉は1806年に山の麓の周りを調査中“偉大な山のピーク”を目撃したと記録した事の由来からパイクスピークと呼ばれるようになったそうです。



この写真は私が電車の中から後ろから来る電車を撮ったものです。

(記 文子 ファセット)

******* 歩いた! 八十八ヶ所お遍路道 1200Km 40日間 *******

会員の方々如何お過ごしですか? ご無沙汰致しております。多くの思いを残してダラスを後にし日本へ帰国して早1年半未だ日本の生活に馴染めぬまま今日に至っております。。。

前会長の小川さんから久しぶりのE-mailで、日本で生活を是非とも会報に載せてと依頼があり、さて何をと考えたとき真っ先に浮かんだのは今年のちょうど今頃歩いた私の“四国八十八ヶ所歩き遍路”の話を書こうと。

何故お遍路を???それは今から十数年前の新聞記事(多分朝日新聞)に、当時朝日新聞、西日本支社の支社長をしていた方が、八十八ヶ所歩き遍路を終えて帰ってきてすぐ得度してお坊さんになったと言う記事を読み、新聞社の支社長と言う我々以上に世の中の裏表を見てきた方が、この遍路で何を感じ得度しお坊さんにまでなったのか?その遍路に興味を持ちそれから折に触れ遍路の記事を読んできました、八十八ヶ所を終え何人かの人がその達成感と感動に号泣したり、途中で怪我や病気で泣く泣く断念し涙した人、さらに過去8-9回も歩き遍路をやり遂げ未だに続けている人がいることを知りました。何がそこまで人を感動させるのか?日本に帰ったら是非挑戦し確かめようと考えておりました。4月末に帰国してまもなく歩くトレーニングを始め、25Kmぐらいを月に何回か歩く訓練をした後、9月13日に出発し、苦闘の末10月22日に無事マンションに帰ってきました。

まず八十八ヶ所の始まりについて、開祖は弘法大師空海で西暦774年讃岐の国、今の香川県善通寺の生まれ、遣唐使として唐に渡り、帰国後真言宗を開いた。生前の名前は空海で死後その徳を称えて弘法大師との称号を与えられた。八十八ヶ所は徳島県に23ヶ所(発心の道場)高知県に16ヶ所(修業

の道場) 愛媛県に 26ヶ所(菩提の道場)、香川県に 23ヶ所(涅槃の道場)である、八十八ヶ所として呼ぶときは寺とは呼ばずお札を納める場所で札所とよぶ。

さて八十八ヶ所歩き遍路の始まりです、9月12日の朝の早い新幹線で新大阪へ高速バスで徳島駅、ローカル線乗り継いで一番目の札所の霊山寺へ着いたのが午後の3時半、ここでお遍路の七つ道具の菅笠、白装束、袈裟、金剛杖、数珠、鈴、お札を買い、お遍路姿に変身します。最初は照れくさいですが1週間もするとこの姿も板についてきます。さらに歩くのに大切な足元は格好からすると草鞋ですが、これは少々高価でも自分に合った歩き易いことを十分考慮したワーキングシューズが絶対条件です、背負う荷物は6Kgs以下とする。・・・

私の歩き遍路を八十八ヶ所の札所に沿って書いて行くと大変な原稿の枚数になってしまうのでエピソードだけをお話します。

しかし歩き始める前にやることがあるんです、その日はどこまで歩くか決めて宿屋の手配をしますので、先ず30Km歩くことを目標に何番の札所まで行くか決めます、札所が丁度30Kmにあることはなく時には35Km先、時には25Km手前のということもあります、その日の最後の札所が決まるとその近くに宿屋の予約をします。宿屋の条件として4時ごろには風呂の準備ができること、洗濯機と乾燥機があることです。我々は宿屋に着くと先ず来ていたものをすべて脱ぎ洗濯機に入れ洗って、その間に風呂に入ります。風呂から上がってきたら洗濯された衣類を乾燥機に入れて完全に乾燥させます、この間に大体6時ぐらいから食事です。7時半から8時ごろまでには寝ます。朝5時に起きてNHKの天気予報を見ながら6時には朝食せずに出発です。このスケジュールでほぼ毎日、八十八ヶ所終わるまで続けます。これを続ける上で“四国遍路ひとり歩き同行二人”と言うタイトルの詳しい遍路道の地図が載った遍路さん用の便利帖は必携です、これには札所までの距離、宿屋の電話番号、コンビニの場所など載っております。

実際の遍路道は“遍路ころがし”と言われる急峻で急勾配の山道がいたるところにあり、中でも難関と言われる焼山寺、鶴林寺、岩屋寺、横峰寺雲辺寺など、この中でも最難関と言われる12番札所の焼山寺を台風18号の通過した翌日に登ることになった、岩の多い山道は水が川のように流れ、その中5時間もかけてやっとのことで焼山寺についた。この日同宿の若い女性の遍路さんは怖くて泣きながら登って来たとしんみりと話していた。この後も遍路ころがしには苦勞し何度となく転んだり尻餅をついたり。。。しかしその都度金剛杖に助けられた、同行二人旅で弘法大師が守ってくれたのか????。

歩き始めて1週間もすると両足にマメが芽吹き、2-3日するとそれぞれの足にりっぱなマメが3-4個、宿屋で針を借りてつぶして水を出しても2日かもするとつぶしたマメの下からまたマメが出来る、それからの2週間は痛くて痛くて両足をビッコしながらの遍路道でした、悪いことにちょうどその頃でした、昼飯で畑の土手に座ったときに毒蟻にでも咬まれたのか、宿について風呂から上がったら太腿の広い範囲が赤く腫れ大騒ぎとなり、宿屋には薬も無く近くに病院もなく、急遽タクシーで40分近く走り薬局を見つけ、化膿止めの抗生物質と痛み止めを買いそれを飲んでの翌日からの遍路道でした。

この頃から遍路歩きを続けることに“何のためこんなことをやっているのか！”“遍路歩きなんか止めてしまえ”と怒りにもにた感情が爆発してきて、女房に電話して“もう帰る！”と言うと即座に“途中で止めると笑われるわよ！”との強い非難口調、仕方なく続けたのが1回目の“遍路は止める”でした。

2回目の“遍路は止める”のときはもう少し深刻な状況で、医者診断書付きの“止める”の宣言でした。それは45番札所の岩屋寺から47番札所の八坂寺までを歩いていて左足が痛み出し、特に岩屋寺の下り坂では激痛がはしり、やっとの思いで宿屋に着いた。幸いにも近くに整形外科の病院があり、宿屋の主人の勧めもあり、病院でレントゲンを撮って診てもらおうと、疲労骨折の兆候が出ておりそのため痛いとのこと。これでお遍路も終わりと思いきや、医者は化膿止めと痛み止めと、一日2回の湿布塗り薬を10日分くれ、1週間ぐらいして症状が良くならなければその時止めるかどうかを決めたらいいとのアドバイスでまたもや遍路歩きは続けることになってしまった。

しかしこの意図されたような難儀苦行の騒ぎの後には、私も諦めたのか吹っ切れたのか歩くことが苦にならなくなり快調なスピードで30Kmでも40Kmでも歩ける自信が出て来た。お遍路とはただひたすら歩くこと、そして歩きながら考えることとこの頃になって実感するようになったのでした。

そこからもう一つ岬へと続く37番札所の岩本寺からの四万十経由の足摺岬の金剛福寺までの70Kmの道のり、この間の海岸線のなんと素晴らしいことか、これが我々が愛する日本の景色、変わることなくいつまでも残ってほしいものです。、海岸線とは対照的な四国の山々の未開の自然を思わせる鬱蒼とした山並み。

しかし雨の日の遍路道は辛かったなー、ビニールカッパの中は蒸し風呂のよう、30分も歩くと着ているものまで汗でビショリ、このビショビショのまままで宿まで歩く気持ちの悪さよ。。。また40Km以上を歩き通し夕暮れの中クタクタになって着いた金剛福寺、朝6時に歩き出しコンビニのおにぎりをほおばりながら8時間も9時間も歩き通し、あれもこれも遍路は修業と言われて励まされ。。。。

それでもお遍路さんにはほっとして嬉しいことが度々待っているんです。それがあの評判の四国の“ご接待”“おもてなし！”です、歩き遍路さんが疲れて歩いて来そうな道の角に有人、無人の接待所が建っており、冷たい水やお菓子、ミカンなどが準備されております、そこでお遍路さんは時には近所のお年寄りとお遍路談義しながら一休みです。ある無人の接待所のクーラーボックスには冷たいオロナミンCが用意されており思わずニコリでした。

また歩いていると“お遍路さんミカンをどうぞ”とか、息子さんが作ったと言う陶器製のお地藏さんの人形をもらってくださいとか、通りかかった老人ホームから看護師さんが走り出てきて“おじいちゃんがお遍路さんに渡してくれ”とお菓子の入った小さな袋を手渡しされたり、水を飲ませてほしいと立ち寄った家では冷たいコップの水の他にペットボトルを持たせてくれたり、農家のおばあちゃんは売るために並べてあったメロンを切って食べさせてくれたり、本当に多くの暖かいおもてなしの接待は我々にはまさに干天の慈雨でした。

ところで私が札所/お寺に着いてそこで何をするのか？ 先ず入り口の山門に着いたら出迎えてくれたお大師さまに有難うと一礼します、そして手を洗い口を漱ぎ、本堂と大師堂の前で、私の場合は三つのお経(?)を唱えます

うやうやしくみ仏を礼拝し奉る。

南無大師遍照金剛

願わくばこの功德を以って 普く一切に及ぼし

我等と衆生と皆共に仏道を成せん

ありがとうございました。

これに心の中で家族の健康と安全を、さらにこの八十八ヶ所お遍路歩きが無事完結出来るように弘法大師をお願いします。これが終わると納経所に行き参拝の証に納経帳に寺印を押してもらいます。そして一休みした後、山門に向かい出て行くのですが山門でまた振り返り大師様への感謝をこめて一礼して札所に別を告げます。

さて八十八ヶ所も終わりに近くなると、自分がこの遍路歩きで何を考えようとしているのか、したのか？ また何を願って歩きお経を上げていたのか自問するようになります。真言宗を考えたこともな

く、宗教心とは縁の無い自分のこの八十八ヶ所札所巡りをどのようにせつめいするか？しかしなんの答えも出せません。

さあ今日はいよいよ最後の遍路歩きは 23Km の道のりで、87 番札所の長尾寺と 88 番札所の大窪寺です。いつものように朝 6 時に出発し朝食はコンビニでサンドイッチを買った。87 番札所を終わり 88 番札所までの途中にある“遍路交流サロン”と言われる遍路事務所に立ち寄ると、歩き遍路を結願する人だけに出す証明書“遍路大使”（英文）の証をもらった。

最後の遍路道は遍路ころがしもある難所だったが昼過ぎには大窪寺に到着し、お参りの後りっぱな結願証を出してもらった。号泣もせず、感動もせず、少しばかりの達成感のみ、どうしたんだろう、無宗教の私にはなんの思いもないのだろうか。。。でもバスの団体でお遍路巡りをする人達や、タクシーで 4-5 人でのグループ遍路、区切り打ちで何回かに分けてするお遍路さんには感動や号泣はあるのだろうか？ それとも御利益を期待してのみか？

88 番札所の大窪寺を終わるとその後最後のお遍路に弘法大師の廟（墓）がある高野山の奥の院へお参りに行く人もいますが、私は後ろ髪を引かれる思いで一路静岡の我がマンションへ。出発してからちょうど 40 日目、台風で 2 日間足止めされたので 38 日間で 1,200Km 近くを歩いたことになった。

遍路から帰ってきて 2 ヶ月もすると無性にあの遍路が懐かしくなり、色んなことが思い出され、と同時に多くの遣り残した事が思われもう一度やりたいと思うようになっている。今度は弘法大師を勉強し般若心境などちゃんと憶えてお参りすれば異なった結願を迎えることが出来るかも知れません、いつの日か。。。。。

今思うことは、これからは少しでも人のためにも生き、他人にはどこまでも優しくあろうと努めることにしたい、弘法大師の教えとは思われないがこれからの人生訓として。

（記 永迫 盛登）



***** 太巻きの具 *****

卵焼き

[材料]

たまご

砂糖（好みで加減）大さじ 1.5～2 杯

塩 小さじ 1 杯

みりん・酒 各少々

だし 大さじ 3 杯程度

薄口しょうゆ 小さじ 1 杯程度

[作り方]

- 卵は割りほぐし箸の先を立てる感じで、泡があまりたたないようにほぐす。
- 調味料をすべて加え、卵液を切るような気持ちで混ぜていく。
- 卵焼鍋かフライパンを強火で熱し、少し煙がでるくらいになった時、油を浸したペーパータオルで薄く油を敷く。
- 箸で卵液をぽとりと落としてみて、すぐにじゅっと固まれば準備完了。

- 鍋一面に薄く広がら程度の分量を目安に卵液を流します。（おたま一杯程度）
- 気泡を箸の先でつぶしながら、表面が少しどろりとするまで待ちます。完全に火が通って乾いてしまうとばさついておいしくありません。
- 端から巻いていったら、再び鍋に油を薄く伸ばして、あとは6と同じ要領で3～5回くらい繰り返し焼きます。 *焼いて巻いた卵の下の部分も箸やへらで持ち上げて卵液を流します。
- 最後は、終わりの部分を下にして、はがれないように数十秒焼きます。火からおろし、あら熱をとって、切り分けたら出来上がりです。 *お砂糖が多めなので、くれぐれも焦がさないように気をつけてください。

かんぴょう

[材料]

かんぴょう 20グラム

煮出し汁カップ3杯

砂糖、味醂、薄口醤油、塩、化学調味料

[下準備]

かんぴょうは洗って塩でよくもみ、ぬるま湯につけておきます（約200グラムになる）

[作り方]

1. さきのかんぴょうを、中火で柔らかくなるまでゆでます（指の先でちぎれるくらいの柔らかさがよい）。
2. ゆで汁を捨てて煮出し汁を入れ、沸騰したところで砂糖大さじ5杯、味醂カップ¹/₄杯、化学調味料小さじ半杯を入れて、さらに中火で約15分間煮て、最後に塩小さじ1杯と薄口醤油大さじ3杯を入れて約5分間煮ます。

椎茸の照煮

[材料]（4人分）

椎茸大 10 個、砂糖、醤油

[作り方]

- * 椎茸は水にもどして石づきをこそげ、浸し汁をひたひたに入れて煮始め、汁が三割ほど煮ついたら、砂糖大さじ四杯を加えて、さらに二割ほど煮つめます。
- * ここで醤油大さじ五杯を加え、中火で煮つめて汁気がほとんどなくなったら、鍋をゆすりながら箸で炒煮にし、美しい照りを出します。

合わせ酢（お米 4 CUP の具材）

[材料]

2 TSP Salt

1 TBL Sugar

1 TBL Mirin

3 TBL Rice Vinegar

3 TBL White Vinegar



***** 編集後記 *****

2014年テキサスステートフェアが始まりました。BIG TEXさんは二年前の火焼の後、new and improved になったということで火事前との比較を下に記しました。

古い TEX 口が動く、手を振る、頭を右左に動かす

新しい TEX 頭を上下に動かす、目を左右に動かす、右目でも左目でもウィンクができる、両目同時に瞬きができる、上半身を左右に回すことができる、右肩を前後ろに動かすことができる、右ひじを曲げたり伸ばしたりできる、指を刺すことができる

十月十九日まで開催しているので、行く予定にしていらっしゃる方は是非確認してください。



(モズリー)